

製本のススメ

Vol. 93

あっという間に寒くなりましたね。紅葉も街に降りてきました。行楽シーズン真っ盛り！温泉と焼き芋の恋しい季節です。

今回も**紙と糸**の話し2（ミシン綴り）

さて、今回は手帳やアドレス帳などに多く使われる**ミシン綴り**のお話です。これは、中綴じの原型ともいえる綴じ方で、本紙中央を糸で縫い、その後半分に折り仕上げていくタイプで、基本的には束の薄いものに多く用いられます。

背の部分に、ミシン目がでますのでカバーを付けたり、通帳のように表紙を合紙させるなどして、ミシン糸を目隠しさせますが、最近では色糸を使い糸目を出したままの物も出るようになりました。

この加工での**長所**は、紙厚を極端に選びませんので薄い用紙でも綴りが可能です。また、折りよりもペラ丁合の方が作業しやすく、特に折加工でズレ易い罫線の合わせが容易にできます。

短所としては、背の角が出ず（中綴じのような状態）背文字等の表現が難しく、また高級感がでません。また糸のほつれも起こりやすく、そのため糸を接着するなどの加工が必要です。

あくまでも束の薄い加工用に生まれた綴りですので手軽な製品での使用が基本です。

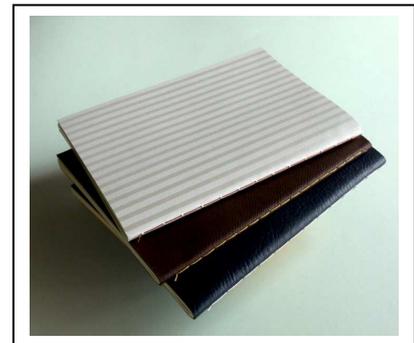
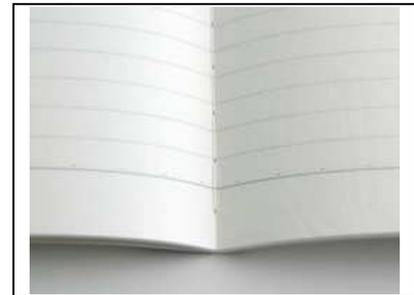
書籍用の背綴りも、ノート用のミシン綴りも、糸で用紙を縫い止めますので、見開きの良さは無線綴じよりも良く、また針金を使用しないので、子供たちの手帳には安全ですね。

それぞれの特徴を理解して、読み易く使いやすい冊子を作っていきたいものです。



Teabreak

毎年11月の酉の日行われる祭礼を「おとりさま」と呼び、境内に立つ市を酉の市と呼びます。鷲神社は、そもそも武運長久の神様で武士の信仰があつたそうですが、江戸時代になり酉の市に農具など並べてみたところ、福をかき集めると熊手が大人気になり、以降縁起物が並ぶようになって、商売繁盛や開運の神様として信仰されるようになったそうです。



by (株) 井関製本